

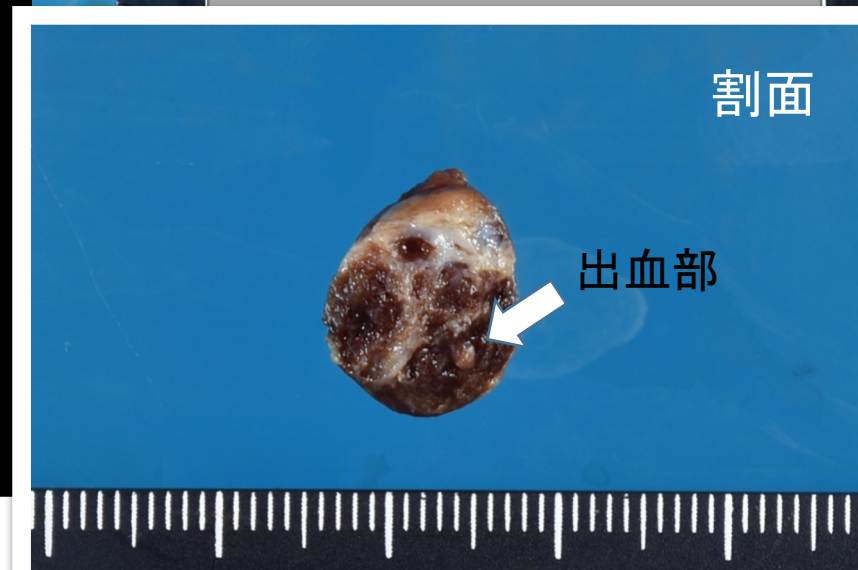
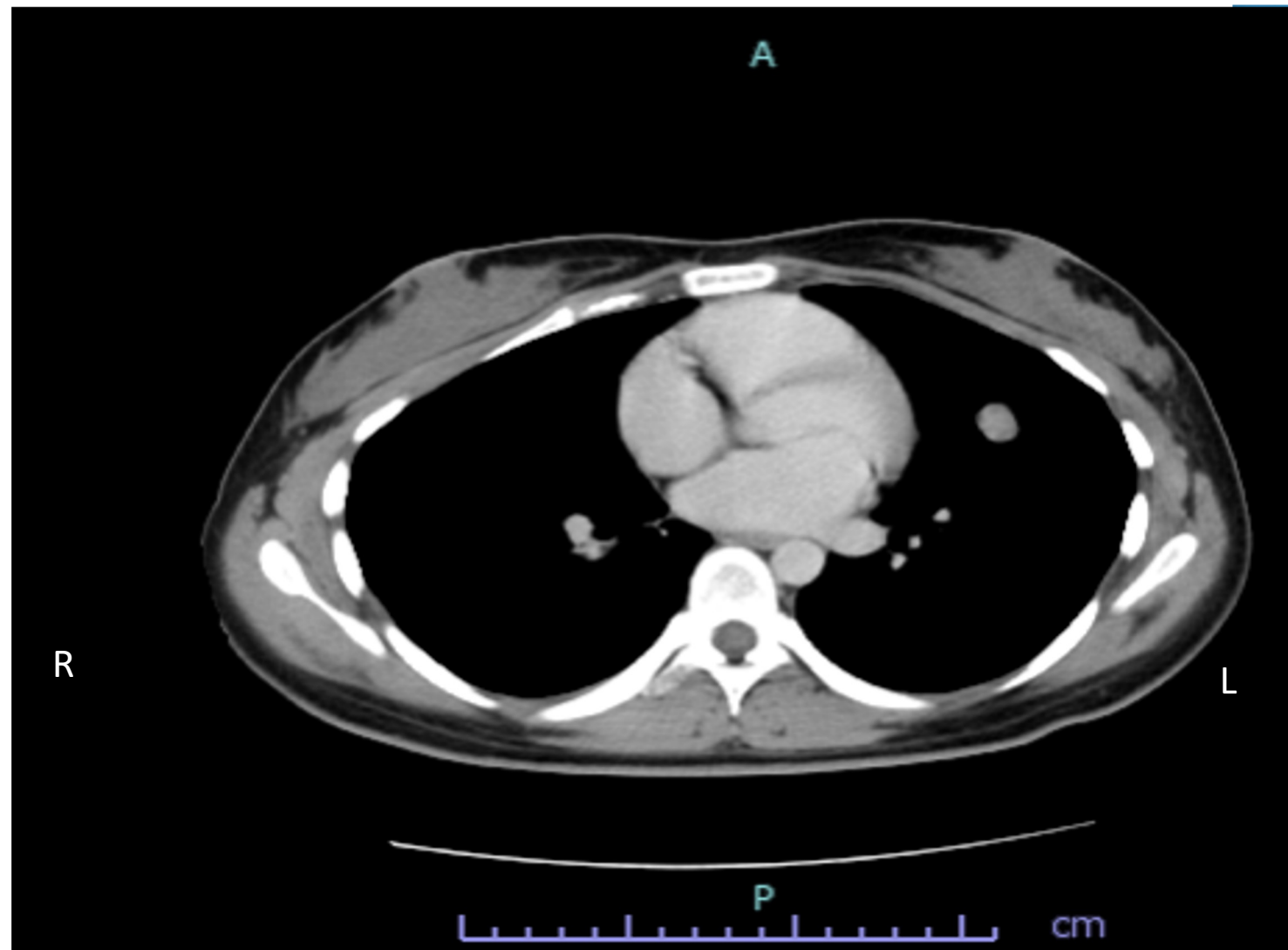
国立病院機構沖縄病院

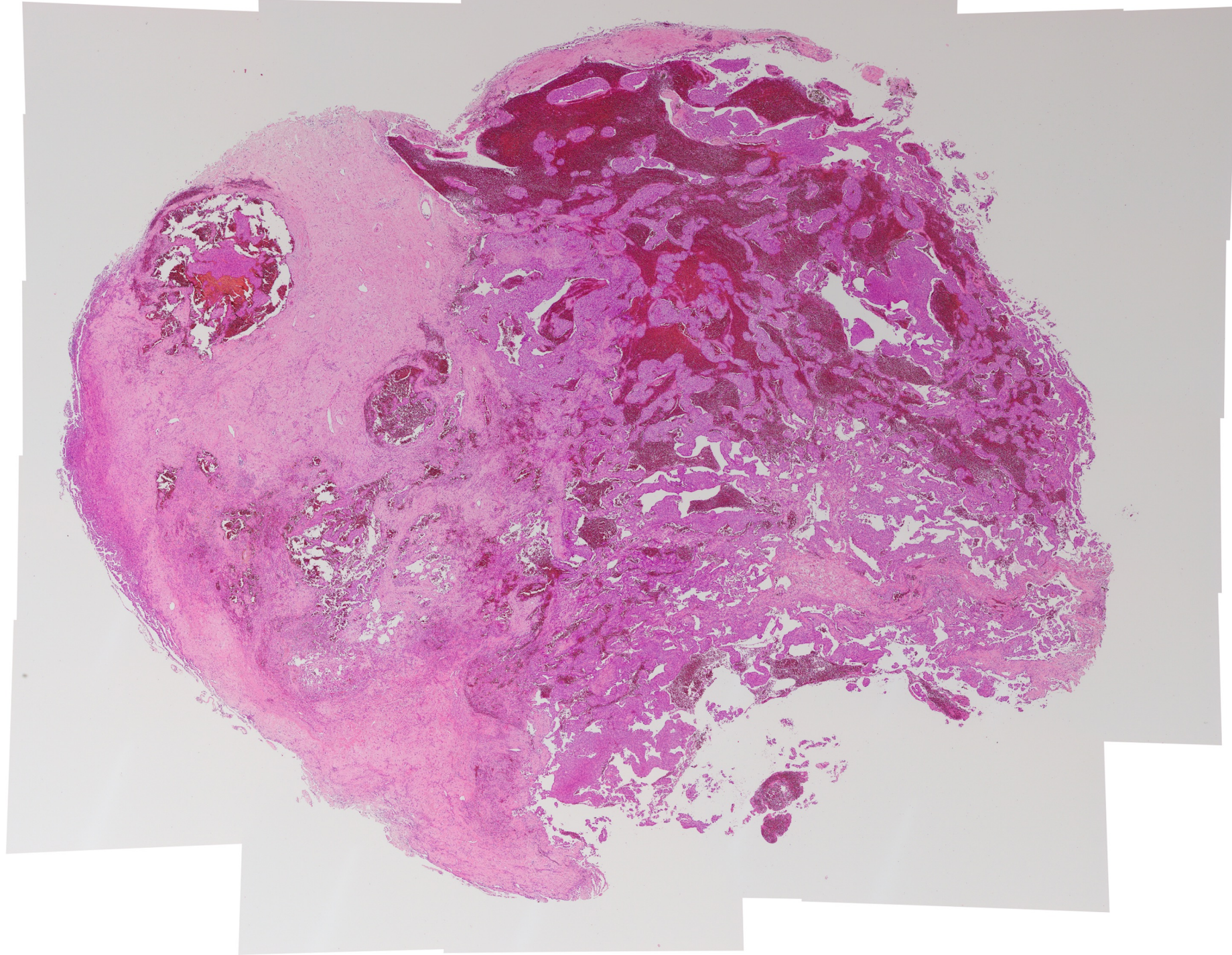
症例 1解説

病理組織診断 硬化性肺胞上皮腫

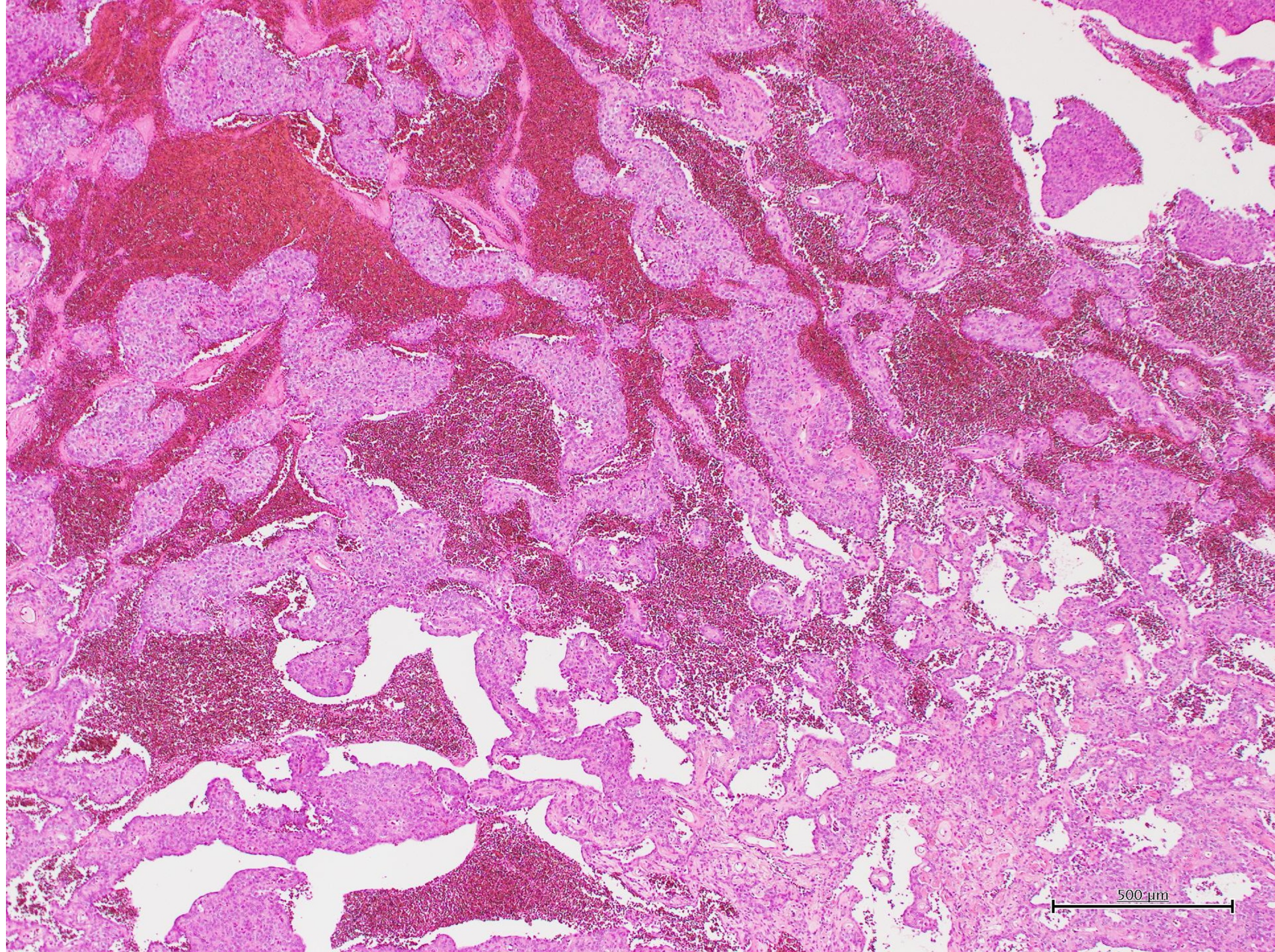
組織学的に、出血成分や線維性組織を背景に、類円形核を持つ細胞が乳頭状構造をとり、増殖している。表面にも細胞が認められる他、乳頭状構造の軸に当たる部分にも同様の類円形核を持つ細胞が増殖している。壁の硝子化した血管やヘモジデリン沈着も認められる。

左舌区切除標本：9.9x3x1.4cm大の検
体

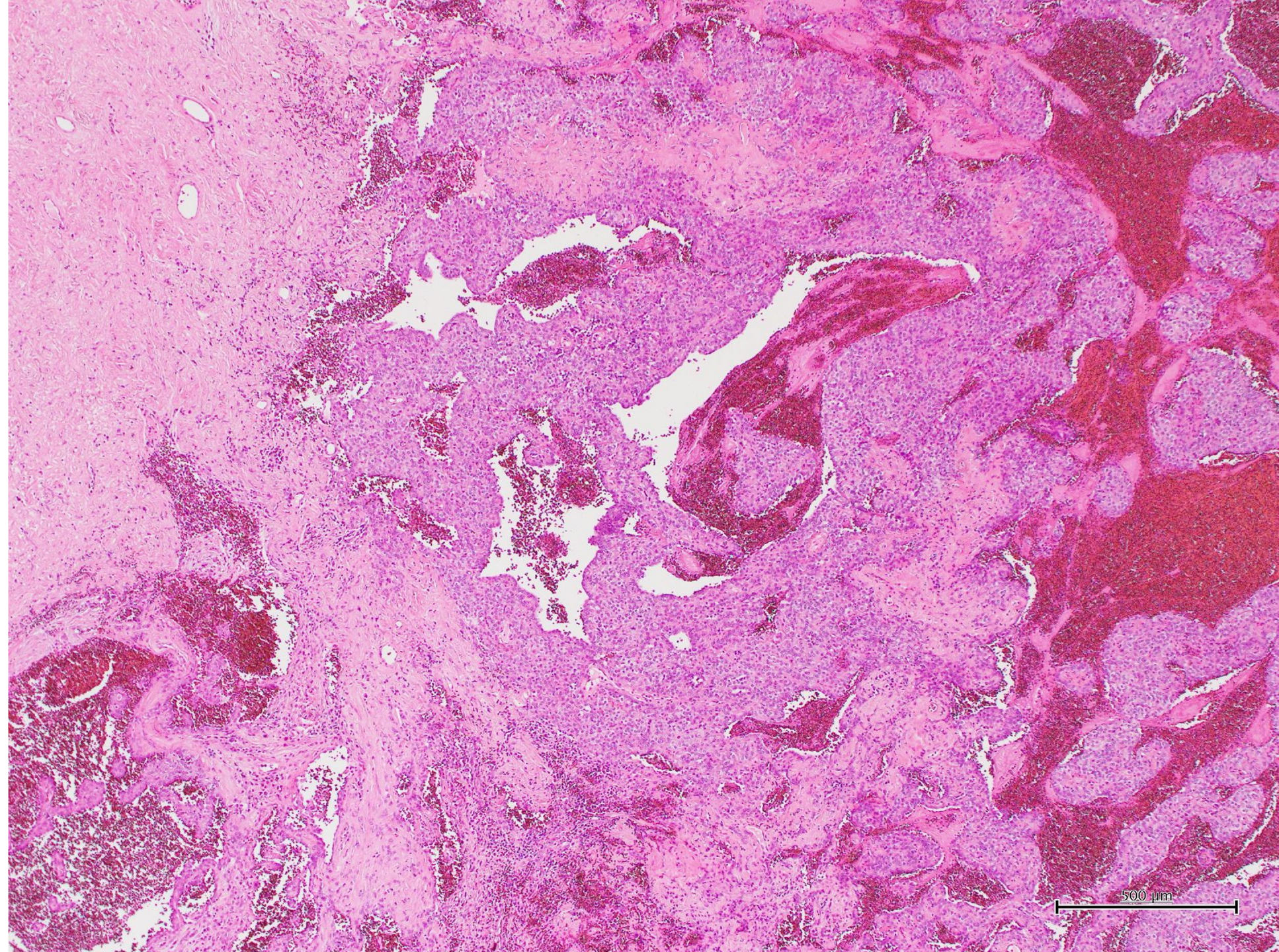




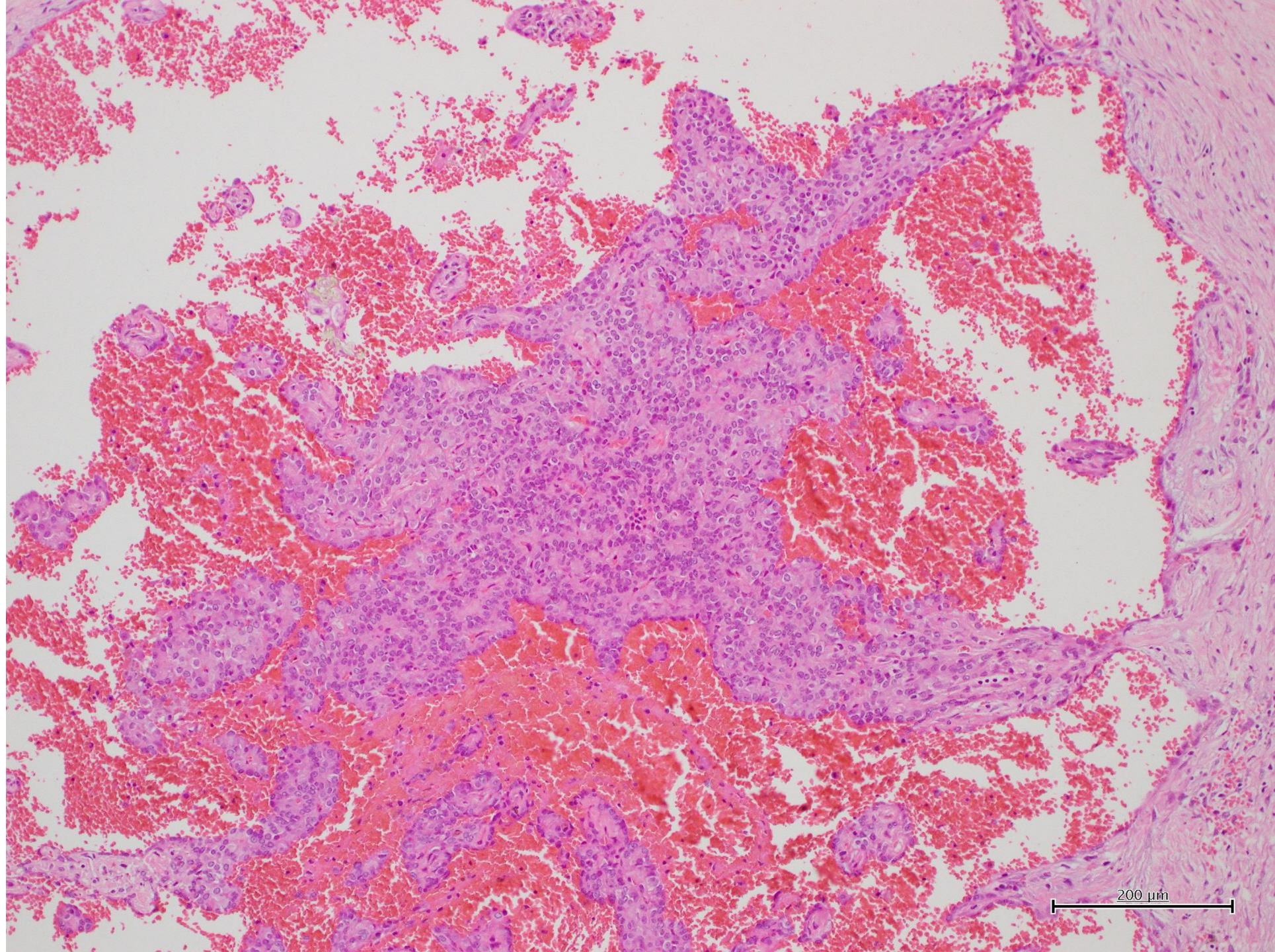
x4



x4

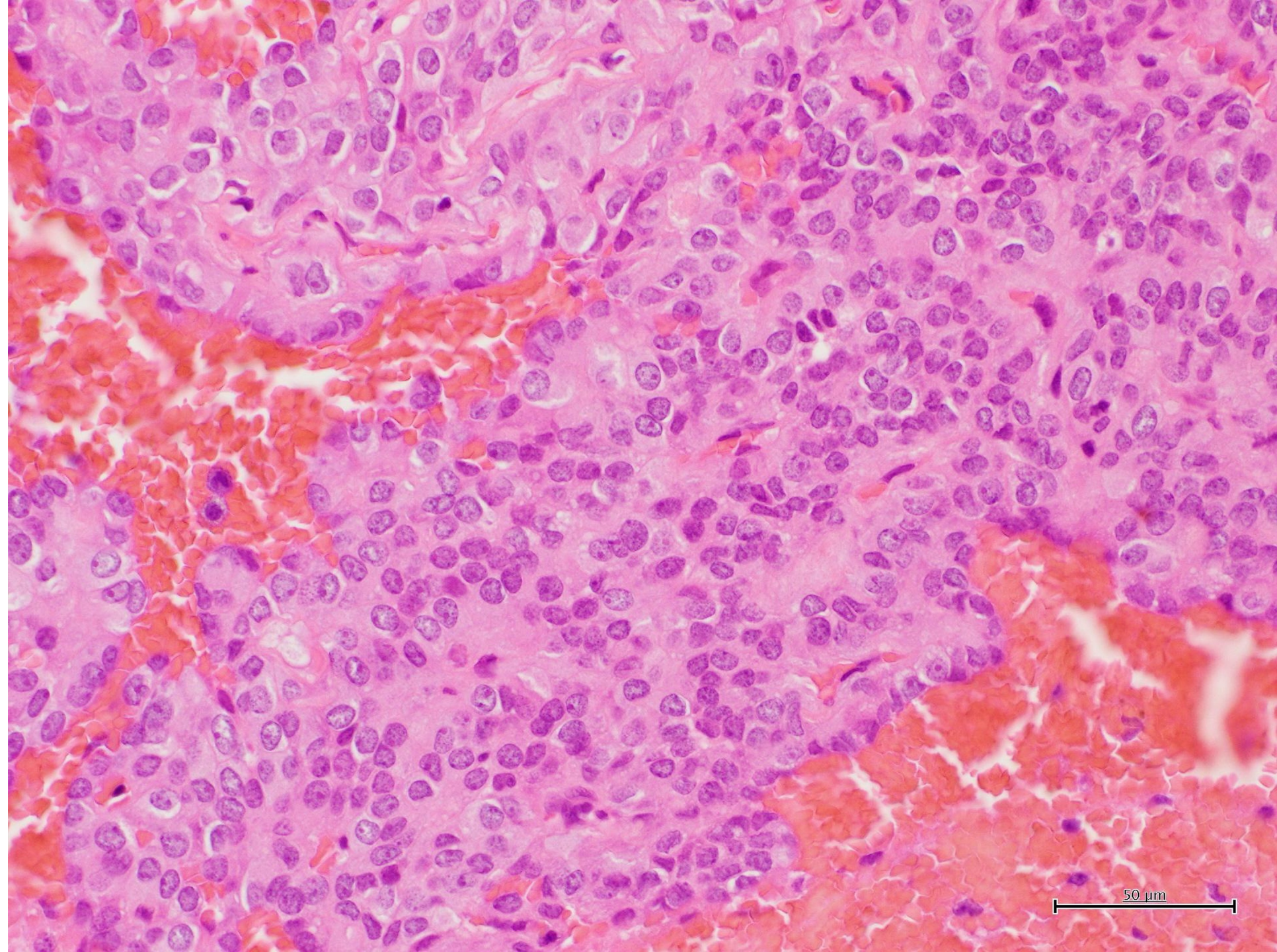


x10



200 μm

x40



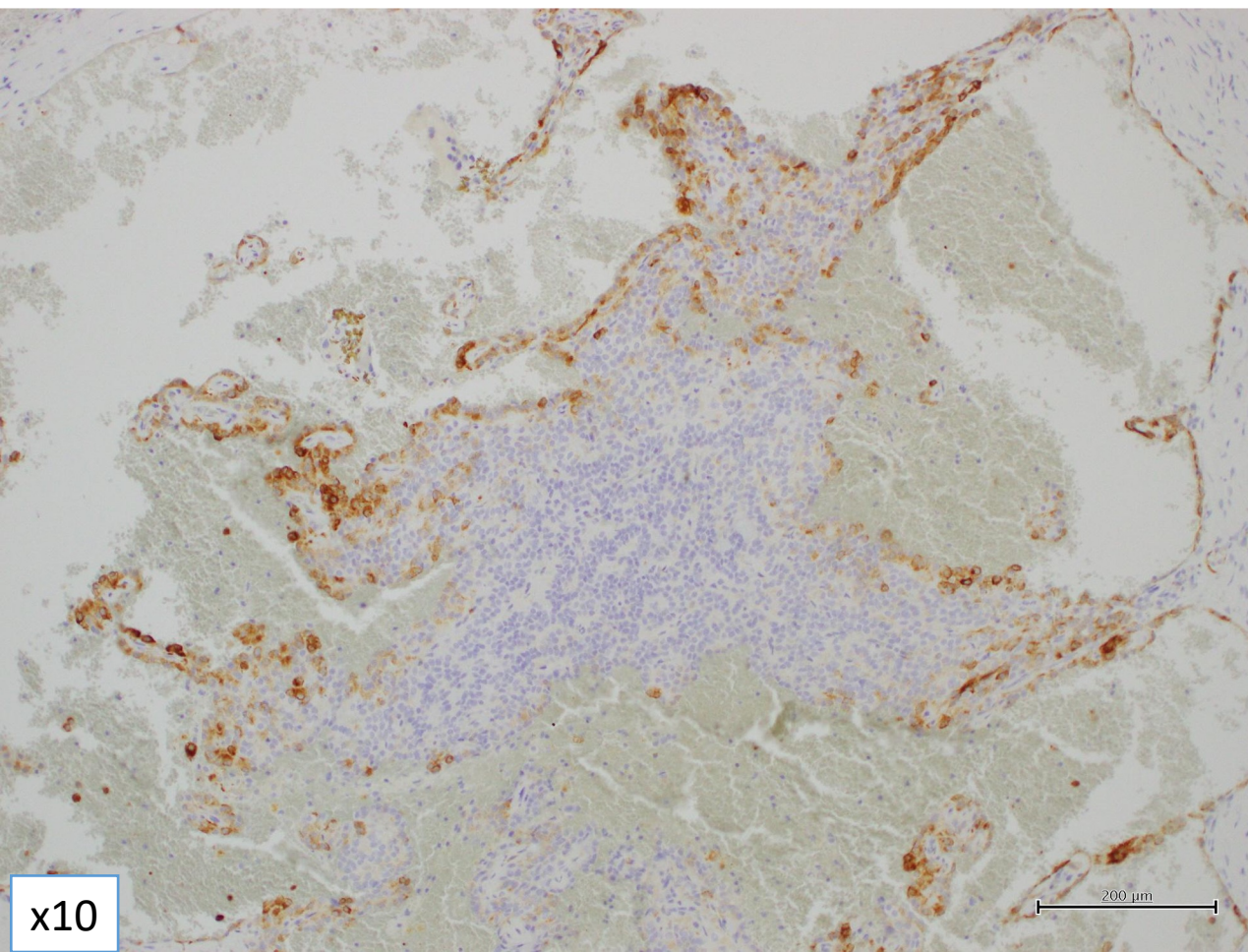
免疫染色結果

陽性	陰性
TTF-1	Synaptophysin
AE1/AE3	Chromogranin A

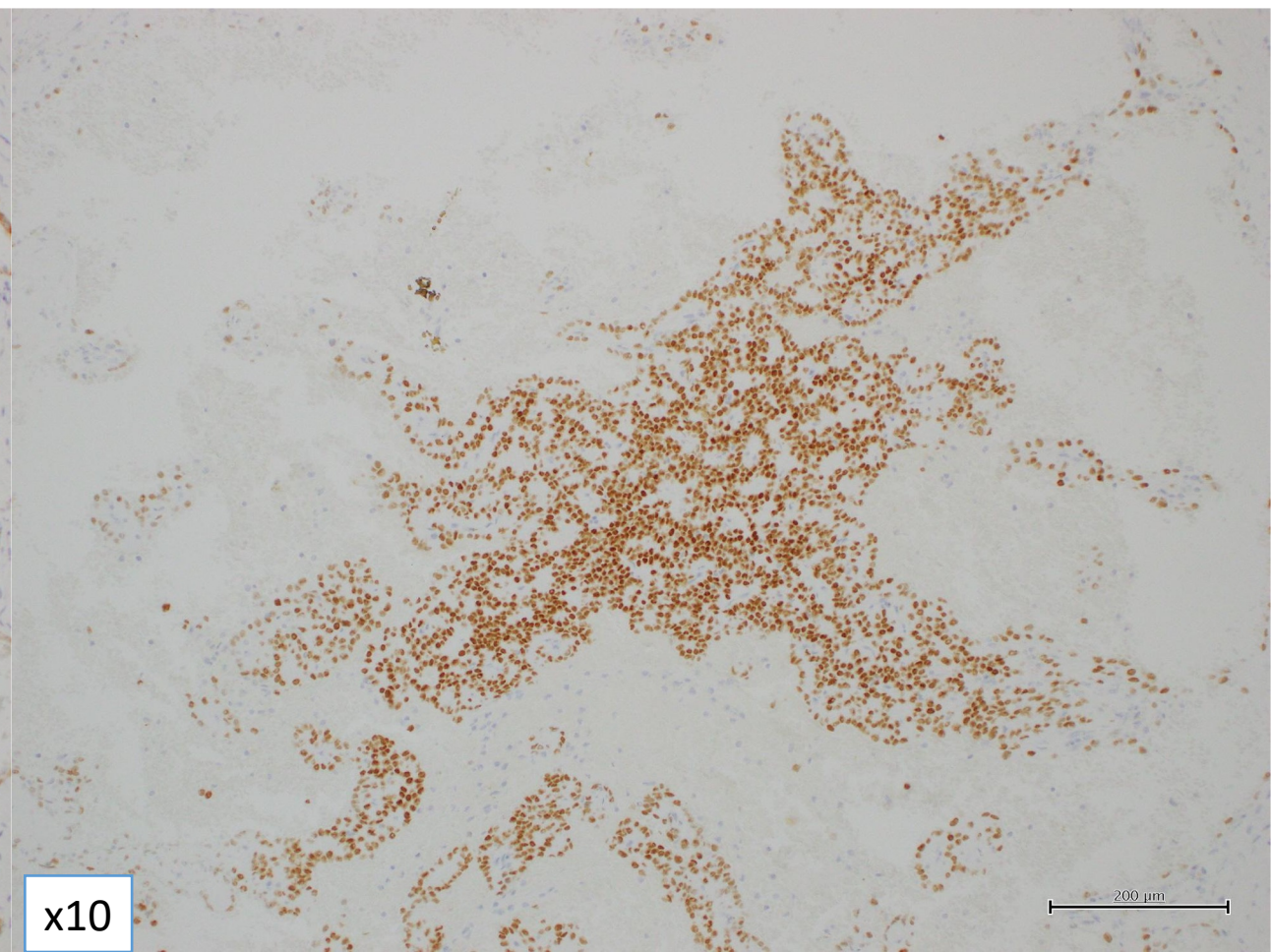
乳頭状構造の表面の細胞や内部の細胞の一部にAE1/AE3(+). TTF-1は表面、内部の細胞とも全体的に染色された。chromogranin A(-), synaptophysin(-)であった。

免疫組織化学

AE1/AE3

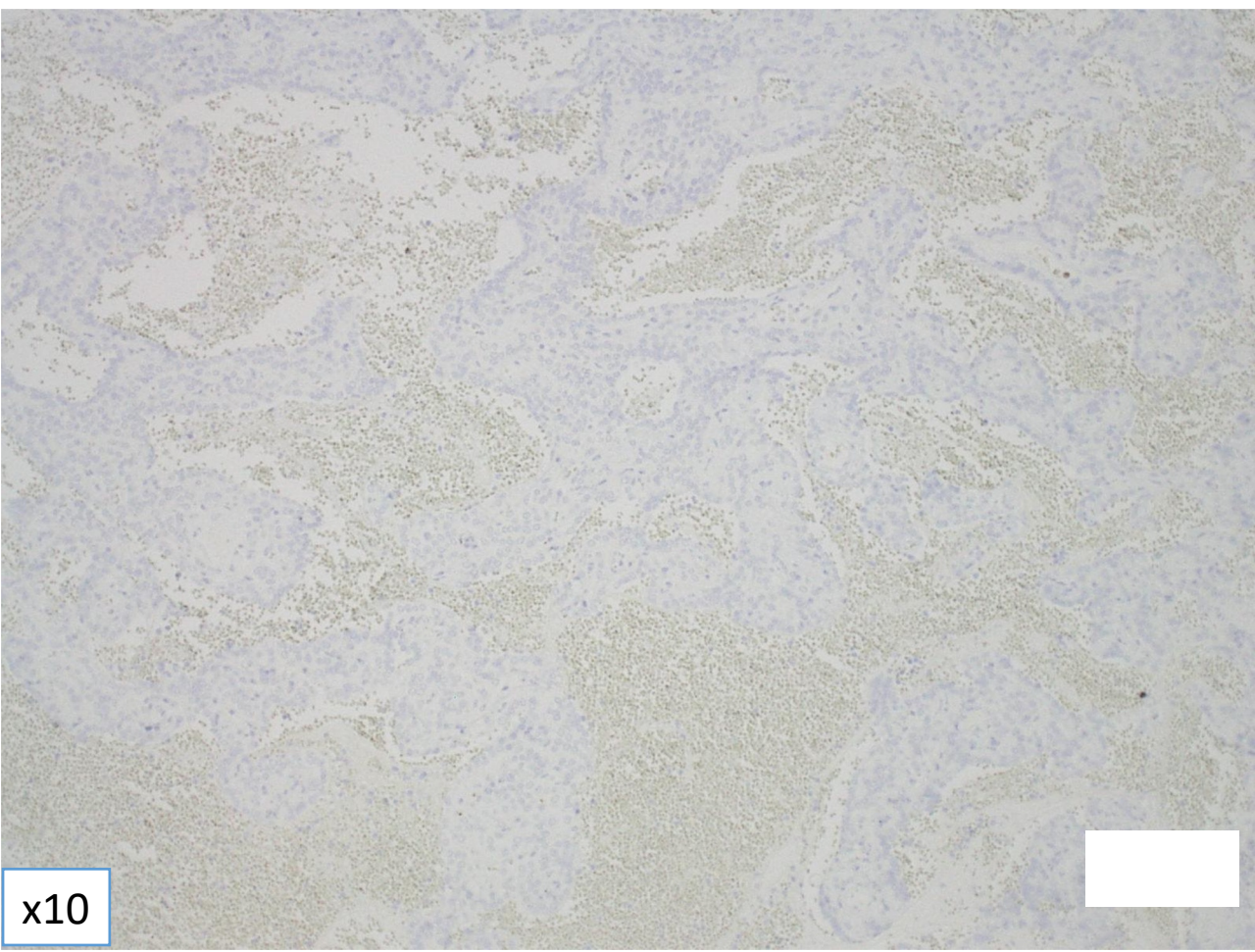


TTF-1

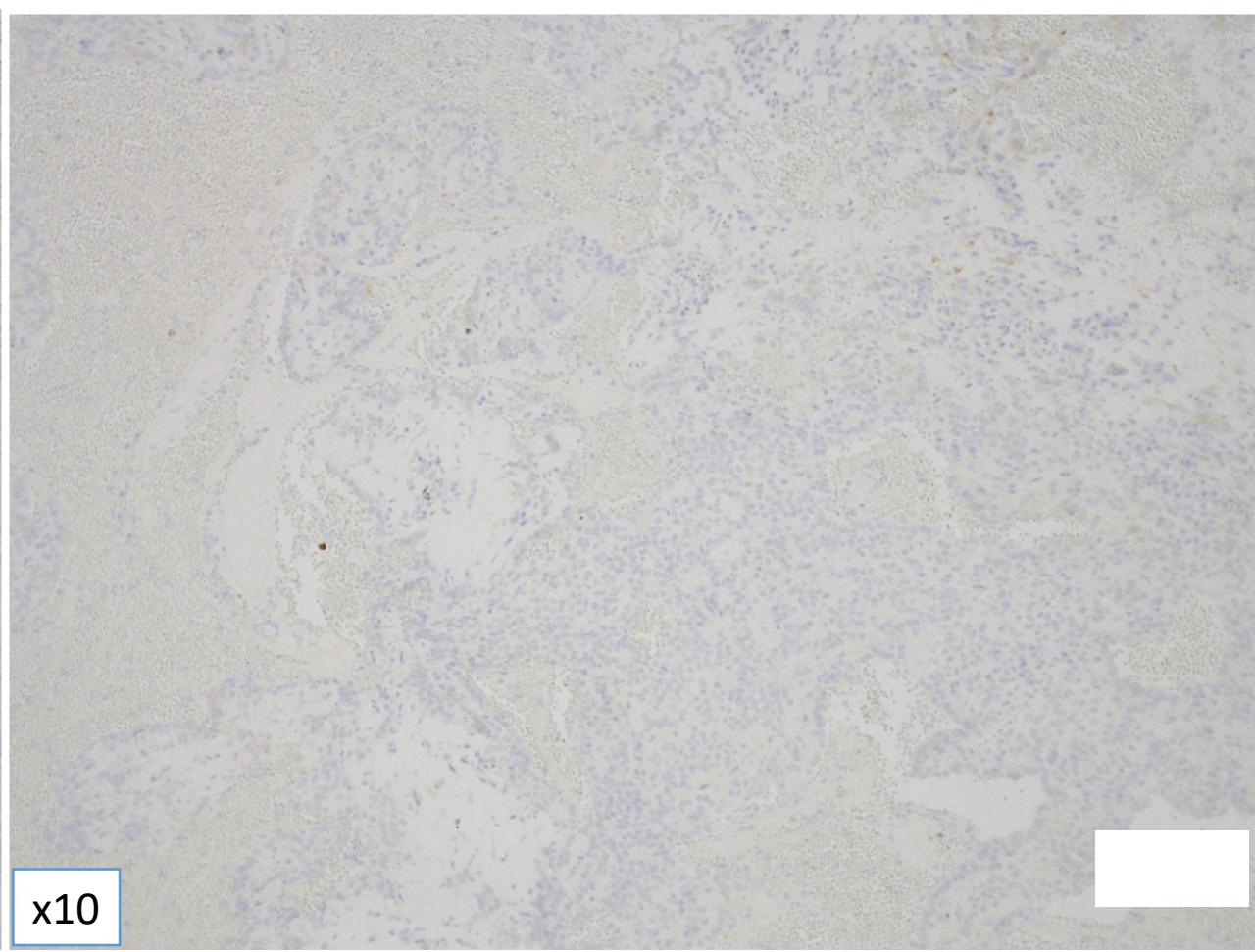


免疫組織化学

Synaptophysin



Chromogranin A



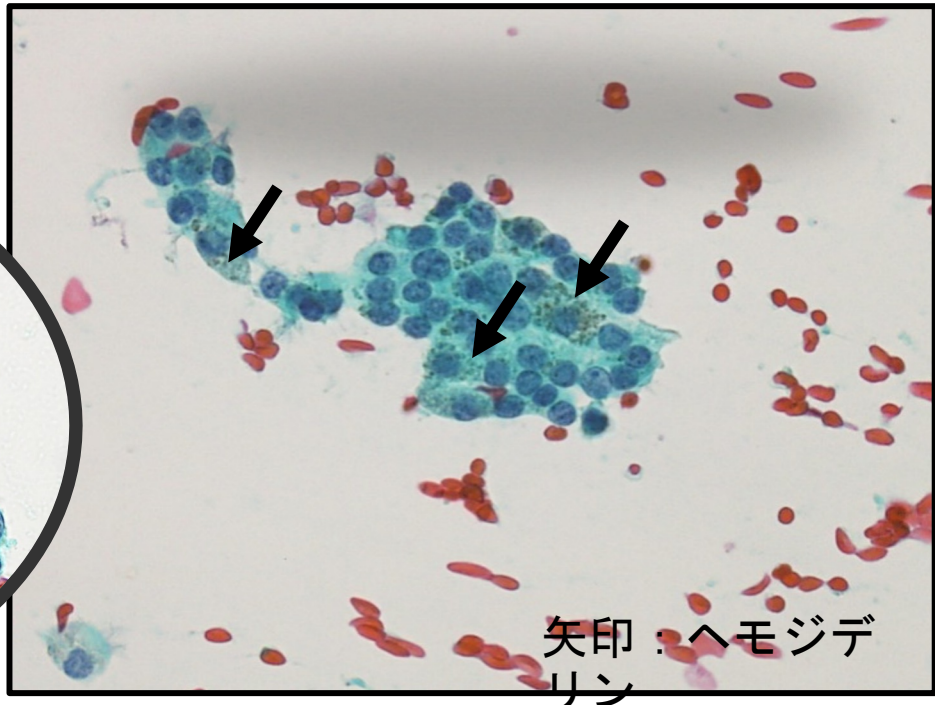
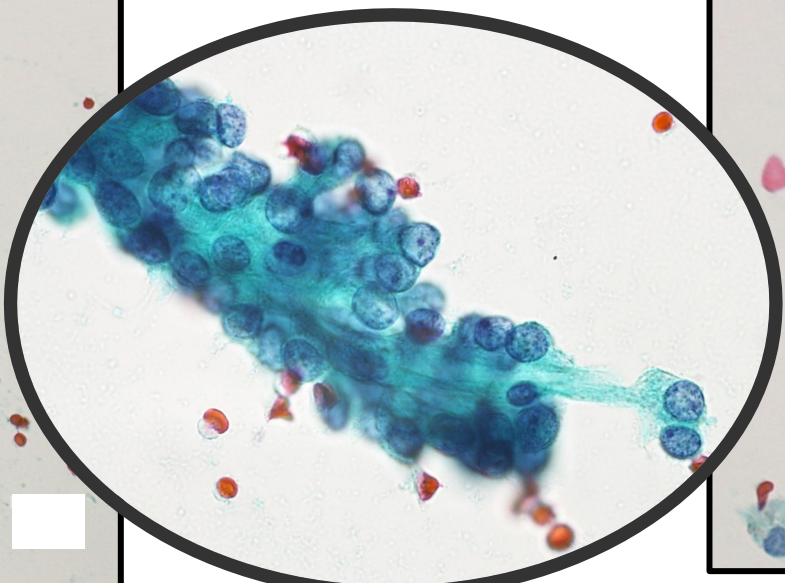
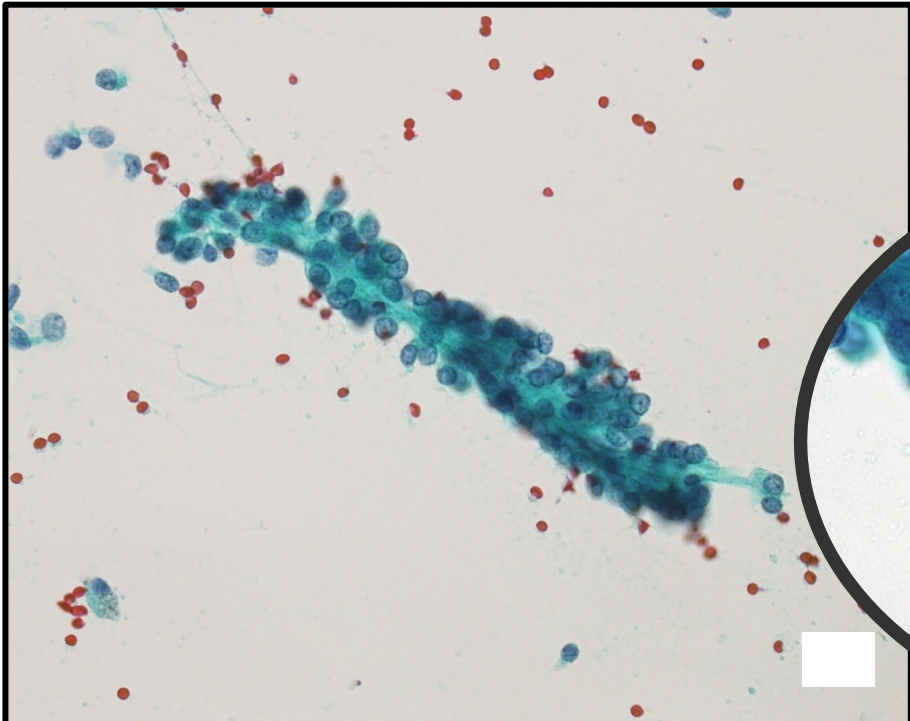
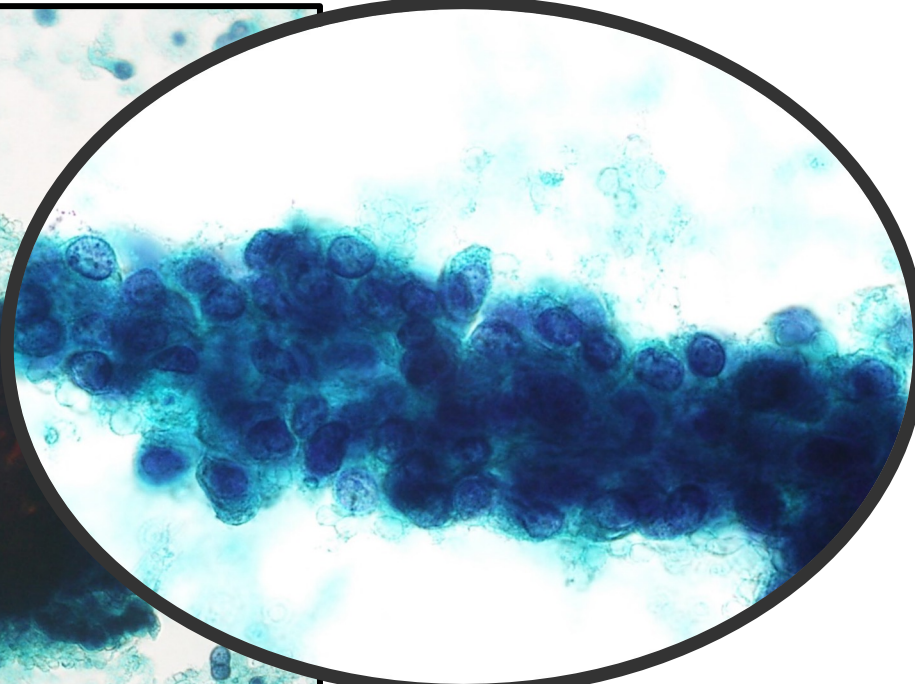
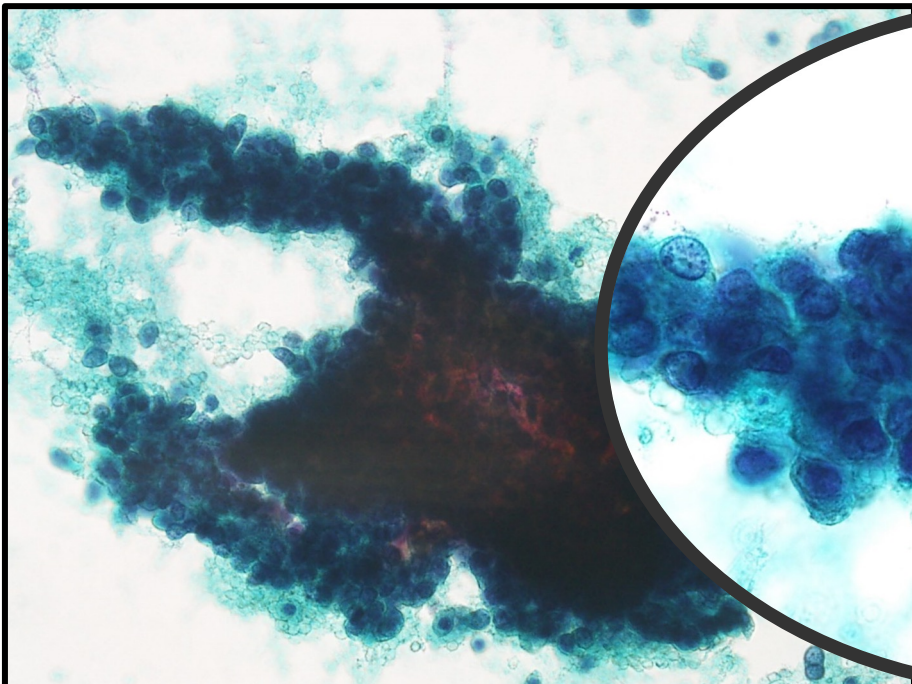
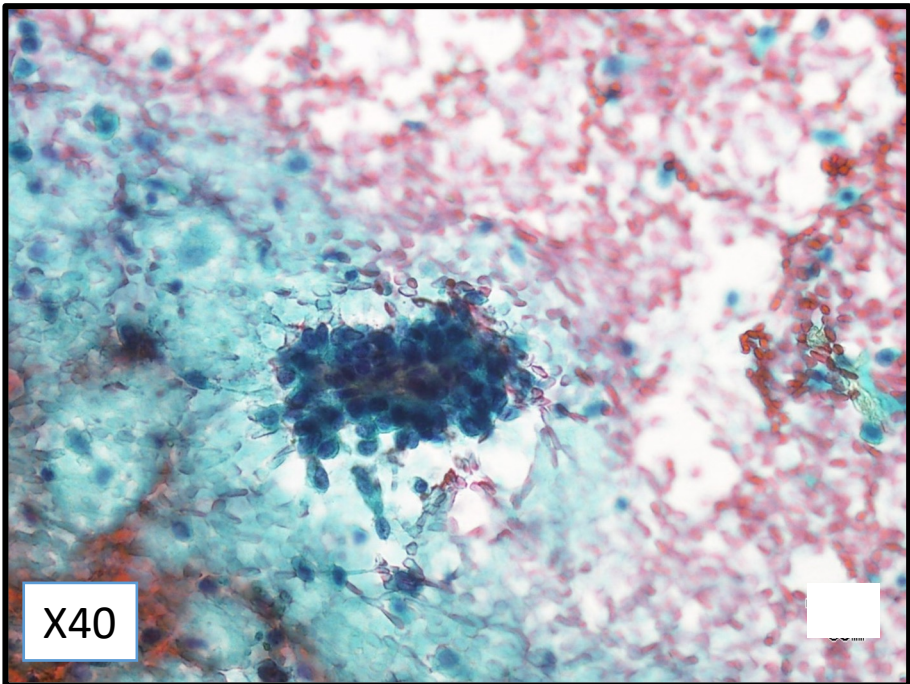
細胞診所見

【捺印標本】

血性背景に、シート状配列あるいは軽度重積性、乳頭状集塊をなして出現していた。

核は類円形で大小不同は認めない。核クロマチンはやや増加しているが、核縁は薄く異型度は低い。また、核小体もあまり目立たない。

また、一部の集塊ではヘモジデリン沈着を認めた。



硬化性肺胞上皮腫

- ❑ 以前は、硬化性血管腫とよばれていた腫瘍である。男女比は1：5で女性に多く、年齢分布は広いが40～50歳代に多く認められる。
- ❑ 肺の良性腫瘍は肺癌に比べて頻度は稀で、肺腫瘍の2-5%を占めるにすぎない。良性腫瘍のなかでは、過誤腫が50-70%を占め、硬化性肺胞上皮腫、乳頭腫が続く。
- ❑ 肺胞上皮への分化を示す細胞が、充実性、乳頭状に増殖し、硬化（線維化）、出血を伴う腫瘍。II型細胞に類似する表層細胞と円形細胞の2種類の細胞から構成される。
- ❑ 硬化性肺胞上皮腫は、年齢や性別が典型例でないこともあり、しばしば腺癌との鑑別を要することがあるため、注意が必要である。

腺癌との鑑別のポイント

【硬化性肺胞上皮腫の特徴】

主として立方状細胞、明るい細胞質を持つ大型の細胞、線維芽細胞様細胞、泡沫細胞の4種類が様々な割合で混在する。

症例によっては上記の4種類が揃わない場合もあり、腺癌との鑑別に苦慮することもある

そこで鑑別のポイントとして・・・

- ・ 乳頭状集塊の線維芽細胞様細胞、背景の泡沫細胞を探す
- ・ N/C比小、核縁が平滑、核小体は目立たない

以上の点に注意してスクリーニングすることが重要である。

参考文献

1. 肺癌取り扱い規約 第8版：日本肺癌学会
2. 細胞診ガイドライン4（呼吸器・胸腺・体腔液・リンパ節）：日本臨床細胞学会
3. 非悪性呼吸器細胞診アトラスー肺癌との鑑別に悩んだ時に：南江堂